



写真3 首人形

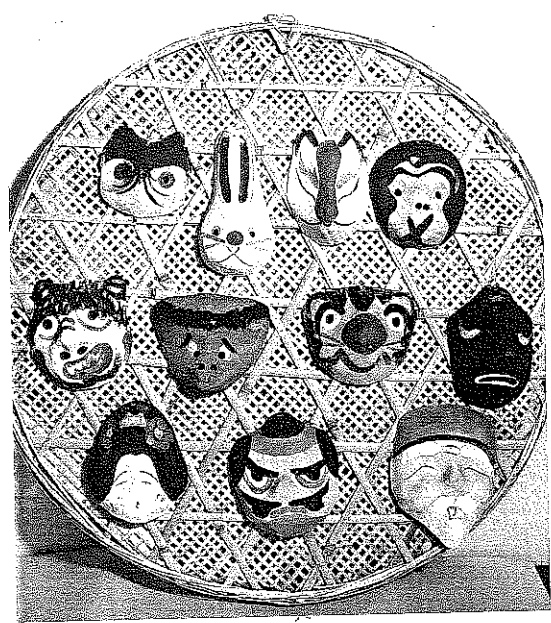


写真4 張子の小面

くご一緒したものであるが、その足の速さや電車に乗る時の機敏なタイミング、よくしゃべり、眼鏡をかけずに新聞が読める(当時七十五歳くらいでしたが)と自慢していたことなど、壮者を凌ぐバイタリティが今日に至っても変わることはない不思議な力を秘めた方だと感服している。

### 三 節太郎さんの作品

節太郎さんが今まで作った玩具の種類がいかに多いものであろうか? 容易に見当はつかないが、ゆうに千種は超えるのではなかろうか。大きく分類すれば張子と土人形(型物・ひねり物)、首人形となるが、その多様

性に目を奪われる一方、土、張子を問わずどの人形を取り上げても、その表情や彩色に松本節太郎ならではの個性が誰の目にも一目で分かるという特徴があります。天性の明るさを持った漫画的な作風はどこから生まれてきたものであろうか「生活のために玩具を作り続けてきた」と語るこの人が異能とも言える才能を駆

使して新しい人形作りに挑戦し続けるエネルギーのもとがどこから生まれるのか、私には不思議でならない。

張子では人形、干支物、干支の起き上がり、だるま、猫、面は特大・大、小面。土物では型物とひねりがあるが、各種首人形、天神、女もの、お雛様、泥メンコ、土鈴と枚挙のいとまもない。

私をもっとも感心するのは手ひねり人形の数々である。身近にいつでも入手できる物に対して私たちはともすれば冷たく接しているといることはいらないだろうか。そしてそれが失われた時、初めてその貴重さを思い知らされるのである。いずれは失われるであろう下総の玩具の数々に見られるベースと郷愁を兼ね備えた味わい深さを必ずや見直す時が来るだろう。

本稿の執筆をきっかけとして今まで集めてきた物の価値を見直し、節太郎さん一代限りと思われる下総玩具を大切にしたいと思っている。長寿という点で思い浮かぶのは、高松

張子の宮内フサさんで私の好きな玩具作家の一人であるが、節太郎さんにはフサさんの長寿記録を破って、現役郷玩作家としてのギネス記録を打ち立てて欲しいと思っています。来年は申年で猿の玩具を沢山作りたいと健在ぶりを示している節太郎さんを見ていると郷玩ファンのみならず一般の人々をまだまだ楽しませてくれそうです。

### 四 下総玩具の入手方法

- ① 玩具の会等の即売に出た時に求める。
- ② ギャラリー・ヌーベル経由で求める。この場合は品種と在庫に限りがあること、多少割高になることは覚悟して下さい。
- ③ 節太郎さんの根戸工房(常磐線北柏駅下車、徒歩十五分、伊藤ハムの近く)を直接訪ねる、この場合品物があるかないかは保証の限りではない。
- ④ 事前に手紙を出しておき、その日に伺う。ただし、達者とは言えども、手紙の返事を期待することはできない。

### 『おもちゃ』 一五九号発行に際して

前号まで編集人を務められました石見徹氏に代わり、本号より編集を担当することになりました。前編集人の長年のご尽力に感謝の意を表すると共に、前任者同様変わらぬご指導ご鞭撻をお願い致します。なお、原稿あつての会誌で御座いますので、皆様の活発な投稿をお願い致します。特に、来年度より表紙を一新いたしたく、題材を郷土玩具に採った絵画、版画等でご協力頂ける方を募集しております。一クール四枚、採用の場合、謝礼として掲載誌五部を呈呈致します。お引き受け頂ける方は編集人宛ご連絡下さい。

編集担当 小林 潔  
 画・監 〇三三三八四八―五八〇〇  
 Eメール sou\_koha@freeserve.ne.jp